

重光議員、岩崎議員が聞く 東広島市被災者生活 サポートボラネット 推進委員会

表紙写真／話をお聞きした皆さん

東広島市内で大規模な災害が発生した時に、被災者を速やかにサポートできる体制づくりを行っている、「被災者生活サポートボラネット推進委員会」委員の方にお話を伺いました。

※平成30年6月29日に取材したものです。

プロフィール



東広島市被災者生活
サポートボラネット推進委員会
委員長 うちやま かずみ 内山 和美さん



東広島市被災者生活
サポートボラネット推進委員会
委員 てらだ きよひで 寺田 清秀さん



東広島市被災者生活
サポートボラネット推進委員会
委員 いしい ふみこ 石井 布紀子さん



東広島市被災者生活
サポートボラネット推進委員会
委員 いしまる としかず 石丸 敏和さん

災害に強いまちづくりに向けて

Q 自己紹介をお願いします。

内山 東広島ボランティア連絡協議会会長をしております内山と申します。

寺田 東志和小学校区住民自治協議会で副会長をやっております寺田と申します。

石井 NPO法人さくらネット

の石井と申します。災害支援の全国ネットワークである災害ボランティア支援プロジェクト会議の事務局を、中央共同募金会と一緒にやっているのが私どもの法人です。

議の事務局を、中央共同募金会と一緒にやっているのが私どもの法人です。

石丸 東広島市社会福祉協議会事務局長の石丸と申します。

Q どの様な組織が教えてください。

内山 一定規模の大きな災害が発生した場合に、被災地の社会福祉協議会が、行政や関係機関

と連携して、災害ボランティアセンターを開設します。そこでは、被災者からのニーズの聞き取りや、実際にボランティアを派遣するというコーディネートを行います。

Q 今までどのような活動に取り組まれたか教えてください。

石丸 ボラネットそのものは5つの柱で取り組みを進めています。①顔の見える「関係づくり」、②被災者生活サポートボ



- ① インタビュー風景
- ② 委員会の様子
- ③ 避難所運営ゲーム（HUG）で使用するカード
- ④ 避難所運営ゲーム（HUG）を行っている様子
- ⑤ ボラネット事業の財源に活用している赤い羽根募金支援自動販売機

ランティア活動の「ルールづくり」、③被災時に求められる「人づくり」、④防災・減災への「情報づくり」、⑤被災者生活サポートボランティア活動の「拠点づくり」です。

寺田 地域についての実情では地元の住民と社会福祉施設等の人が共同で避難所運営ゲーム(HUG)等の訓練を行い、問題を共有します。そういった関連する人がお互いを理解しあっていないと、混乱時にはうまくいきません。

Q 今後取り組みたい活動について教えてください。

石丸 新しい取り組みに、災害ボランティア登録制度というものがありません。市内で災害が発生した時、スムーズにボランティア活動が需給調整できるよう、平常時からボランティアさんを登録していこうという取り組みです。

Q 行政に求めることはありますか。

石井 行政に求めることは5つあります。①行政が費用を負担

してくれて一番助かるのはボランティア活動保険です。ボランティアセンターのことは地域防災計画に書いてあるので、費用を負担してくださる市町村も増えてきています。②次に大型の輸送車両。軽トラ・ワゴン車・マイクロバス等を、運転手も含め必要に応じて行政の方が負担してください。

③また、ボランティア関係の拠点として、公的な拠点を素早くお借りできるとスムーズに対応ができます。④その他、ブルーシートと土のうは行政が提供して、運営はボランティアが応援するとい形になります。⑤いざとなったときは、地域が大事ですが、地域の資源だけでは足りないので、地域、社協、行政、大学、企業、地元のマスコミ等が、被災者を速やかにサポートできる体制づくりについて一緒に考えられる関係を日常から作っておくことが大事です。⑥いくつか活動があるということとを、まず市民の方を知っていただきたいと思います。